

平成 26 年度厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）健診・医療・介護等データベースの活用による地区診断と保健事業の立案を含む生活習慣病対策事業を担う地域保健人材の育成に関する研究（H25－循環器等（生習）－一般-014）
（研究代表：横山徹爾）

年齢調整に関する補足説明

2014.11.20.

1. 年齢調整割合(%)

高齢者ほど高血圧の割合が高いことはよく知られています。国全体に比べてB市の方が高血圧者の割合が多かったとしても、B市の方が高齢者の割合が多ければ、国全体よりもB市の方が（高齢者が多いので）高血圧の割合が多くてあたりまえとも考えられるので、血圧の状態に違いがあるかどうか判断できません。そこで、国全体もB市も年齢構成が同一だった場合に期待される高血圧者割合（＝年齢調整割合）を計算して比較することが行われます。

2. 標準化比（標準化該当比）

標準化比も年齢調整方法の一種で、標準化死亡比(SMR)と同じ計算方法でリスク因子該当者の割合を、各都道府県や全国を基準とした比で表現したものです。基準が県（＝100）の欄の値は、県全体を 100 とした場合の各市区町村等の該当割合を意味します。例えば、男性の腹囲 $\geq 85\text{cm}$ の標準化比がA市で 120 だったとすると、県全体に比べて腹囲 $\geq 85\text{cm}$ の割合が 1.20 倍高いと解釈できます。同様に、基準が国（＝100）の欄の値は、全国を 100 とした場合の各市区町村等の該当割合を意味します。数値に*印が付いていないものは、標準化比が高い（または低い）が偶然変動の範囲かも知れない、*印が付いたものは、有意に高い（または低い）（偶然変動ではないだろう）ことを意味します。

一般に、数値の安定性等の理由により、市区町村のように人数が少ない場合は年齢調整割合よりも標準化比を使うことが推奨されます。本ツールでは両方計算されますが、年齢調整割合を参考としつつ、標準化比で高低を判断して下さい。